プロボクシング東洋太平洋スーパーバンタム王座戦

プロボクシングの東洋太平洋スーパーバンタム級タイトルマッチ12回戦が21日、名古屋市の愛知県産業貿易館で行われ、同級12位の挑戦者・大橋弘政(29)＝HEIWA＝が、フィリピン出身の王者・ロリー松下(25)＝石川・カシミ＝を7回KOで破り、新王者に就いた。大橋は連続KO勝利を「8」に伸ばした。

世界5位倒した 気持ちで大逆転KO

鮮やかな逆転KOに、地元の観客は総立ちとなった。絶叫の「大橋コール」に、コーナーポストに駆け上がって応えた大橋は、リングの上に倒れ込んでタイトル奪取の喜びに浸った。

まさかの戴冠だった。東洋太平洋ランクベストテンにも入っていない挑戦者が、世界ボクシング評議会(WBC)5位にも入る王者を倒す大番狂わせ。「技術もパンチの力も負けていた。でも気持ちで負けたくなかった」の言葉どおり、まさに不屈の魂でつかんだ勝利だった。

1回は圧倒的な劣勢。強烈な王者のパンチに早くもダウン寸前。まぶたの上が切れ右目も見えなくなった。だが「前が見えなかったのでインファイトしかなかった」と、2回終盤から、ひたすら前に出続けた。壮絶な打ち合いの中で、パンチが相手の顔面を確実にとらえ始める。7回、疲れが見えた相手へ畳み掛けると、ついにレフリーが試合を止めた。

大橋 弘政 KO 7回1分50秒 ロリー松下(カシミ) 55・2キロ
(HEIWA) 55・1キロ
(大橋は新王者)

6回、ロリー松下に右ストレートを浴びせる大橋弘政(右)＝愛知県産業貿易館で

▼大橋弘政（おおはし・ひろまさ） 1979（昭和54）年12月31日、名古屋市中川区生まれの29歳。165㌢。同朋大に在学していた2000年5月にHEIWAジムに入門し、ボクシングを始める。同年11月プロデビュー。右ストレートが得意の右ボクサーファイター。対戦成績20勝（13KO）8敗3分け。

リア10年で8敗と並のボクサーだったが、頂点に立つ夢をあきらめず練習に打ち込んだ。HEIWAジムの移転で、世界王者を育てた名門・松田ジムに預けられ、ここで〝修業〟するようになったのが転機。

「HEIWAジムに居続けたら、お山の大将で終わっていた。松田ジムで4回戦の選手にも負ける中で成長できた」。遅咲きファイターが8連続KOでついに栄冠をつかんで、しっかり練習して防衛していきたい」と、謙虚に語る。ひたむきなボクシングで観客の魂を揺さぶった新王者の快進撃が始まる。

（田中一正）

父へ感謝の手紙

○…タイトルをつかんだリング上で、大橋は3歳から男手一つで育ててくれた父親・造さん(60)への感謝の手紙を読み上げた。

「父の日だし誕生日近い(25日)ので、勝たら読もうと思って昨日書いてきた。家鉄工所をやっているに長男として継ぎもず、ボクシングを続させてくれた」と橋。涙で言葉になっいなかったが、観戦た敬造さんは「まさ勝つとは思わなかた。本当に良いプレントをしてくれた」喜んでいた。

▽4回戦
松本 章宏(カシミ) 54・9キロ 野田 幸宏(コパン星) TKO 4回52秒

藤沢 光祐(大一スペ) 58・7キロ 田村 将道(三河) 判定 58・8キロ

▽8回戦
坂井 允(鈴鹿ニイミ) 56・8キロ 木村 緑級(ゼキ) TKO 7回51秒

松浦 寛哉(松田) 50・0キロ 小山 健太(とよはし) 判定 49・9キロ

児玉 卓郎(岐阜ヨコ) 53・9キロ 川瀬 昭一(松田) 負傷判定 61・1キロ

長屋 洋(岐阜ヨコ) 60・8キロ 橋口 竣(正拳) 54・2キロ 桜 KO 1回1分4秒

中部スポーツ 応援宣言